国土交通省
道企第 88 号
19.5.31

恵建管第１－２４０号
平成１９年４月２７日

国土交通省道路局長　宮田　年耕　様

恵庭市長　中　島　興　世

中期的な計画の作成にあたっての意見の提出について（回答）

平成１９年４月２日付け（国道企第１１４号）で依頼のありました標記について、別添のとおり回答いたしますので、よろしくお取り計らい願います。

建設部事業調整担当
0123-33-3131（内線 2450）

中期的な計画作成にあたっての意見

○　重点化を進める上で特に優先度の高い政策

少子高齢化の進む中で、子供の出産・老人等の救急医療や介護福祉などが大きな問題であり、現状として、各地における病院施設や医師が不足し、病院や施設を選べる状況ではない。

このことから、病気等になった際には、高次医療施設がある大都市へ自動車による移動をせざるを得ないため、道路による大都市へのアクセス強化を優先する。

また、農業による産業もさることながら、二次製品である加工食品等の生産も数多くあり、他都市への運搬輸送においては、稼動力の大きい自動車輸送が大きな役割をしており、更なる時間短縮の上からも幹線道路の整備が必要である。

都市基盤となっている道路・橋梁は、他都市にもれず高度成経済長期に数多く造られたもので、更新時期を迎える橋梁が急激に増加してくる。近年の増えつづけている地震等の災害に対応し、物資の輸送や人の避難が安全・安心して行えるよう耐震補強等の長寿命化や架換えが必要である。

平成１２年に制定された「交通バリアフリー法」に基づき、長寿社会に先駆け高齢者や障害者が社会参加しやすく、また、歩きやすい環境整備が必要であり、駅や病院などの特定施設に併せ、段差のない道路のバリアフリー化が欠かせない。

地域の自立の一つとして、観光が挙げられ、自動車による移動もさることながら、「歩く」、「自転車」による移動のスローリズムに対応する広域サイクリングロードの整備が必要であり、北海道観光の中心地である札幌市から北広島市、恵庭市、さらに北海道の玄関である千歳市までの広域的な整備が求められている。

恵庭市も恵庭の「顔」となる中心地の形成にあたり、都市の中心としてふさわしい地区として土地建物の高度利用化とこれを支える主要道路の整備を計画しており、これを執り進める上からも道路特定財源による道路予算の確保をお願いする。

○　効率化を徹底的に進める上で重視すべきこと

当市を含め、都市ごとに事業を行うのではなく、近隣都市との連携による事業共同化を推し進め、近隣都市で共同化することによる無駄な経費の削減を目指している。このことにより各都市における事業のコンパクト化が図られるが、同時に近隣都市までの時間の短縮を図る必要が生じてくる。これを行うには道路の整備が必要であり、それと同時に整備時間の短縮も大きな役割を果たしている。よって、必要な道路の整備にあたっては、事業重点化を行い、スピードアップを図ることを重視すべきである。

また、高速道路料金の引き下げや既存高速道路の新たなインターチェンジの増設などを行い、誰でもが利用しやすい、どこからでも使える道路の有効利用を図るべきである。

○　その他、道路政策や道路の整備・管理全般に関する意見

道路の機能は、自動車、自転車、歩行者などへの通行サービスとしてのトラフィック機能や沿道の土地・建物、施設などへの出入りサービスとしてのアクセス機能をもつ交通機能のほか、防災スペースやライフラインの収納に必要な都市施設スペースとしての空間機能を持っている。従って、道路は、市民生活や社会経済活動を支える最も重要な社会資本であり、世代を超えて受け継がれていくものである。

このため、道路施策を執り進めて行くうえでは、市民生活の質を高めていくという観点から、地域道路の充実した整備をするためにも道路財源の確保が必要不可欠である。

このほか、積雪寒冷地の特性である除排雪は、市民ニーズが一番高く、維持管理費も増加の一途であり、それらに対する自治体の財源確保は、非常に厳しくなってきていることから、道路特定財源による、これらに対する補助の制度化を願うものである。

各地の「道の駅」は地域情報や地域観光案内情報を提供し、地域情報発信のネットワーク化を図ることができ、周辺地域の観光資源や観光拠点を活用し、地域間、拠点施設間双方向へ「人」の流れをつくり、さらに相乗効果を生み出し広域的な地域活性化を図ることができる。

これ以外にも、自動車を運転する人のみならず、休憩、食事、買物等ができることは当然であるが、広い駐車場は、イベントの活用や災害時の避難場所としても重要な役割を果たしている。

また、シーニックバイウェイによりエリアの観光資源をつないだ周遊ルートを創出し、人との出会い・ふれあいのある観光づくりができる。

このことから、「道の駅」が情報を発信する主要な拠点とすれば「シーニックバイウェイ」は、それを結ぶ動脈であり、観光支援の上からも道路づくりは必要不可欠なものである。